

資料

令和 2 年 7 月 2 日
金融庁

福島県と金融庁・東北財務局が連携した副業人材活用の取組み

1. 開催までの経緯

1 ちいきん会

- 開催 : 2019年11月
- 会場 : 福島市内
- 参加 : 380名



- 金融庁地域課題解決支援チーム等が事務局を担い、地方創生に熱意ある公務員と金融機関等有志が肩書きを外して議論する。
- テーマの1つ : 「人手不足解消に向けた副業人材の活用」

2 2020年4月 福島県 副業人材活用事業を開始

目的

- 関係人口の増加
- 首都圏の人材スキルの活用した企業の生産性向上

支援策

- 企業が負担するマッチング手数料の補助
- 人材採用までの企業への伴走支援

3 「ちいきん会 福島ダイアログ※」で副業人材活用を議論

※ ちいきん会メンバーの官学金有志による地域課題解決を話す場

福島県

- コロナ禍による受入企業の募集説明会開催の遅延

金融機関

- 金融機関が保有する企業ネットワークを活用した企業募集ができないか。

ダイアログ

金融機関が副業人材の活用を学ぶ場が必要

2. 「副業・兼業人材活用セミナー」の開催

1 本セミナーの概要

- 開催 : 2020年6月18日
- 対象 : 県内金融機関等
- 参加 : 51名(オンライン開催)

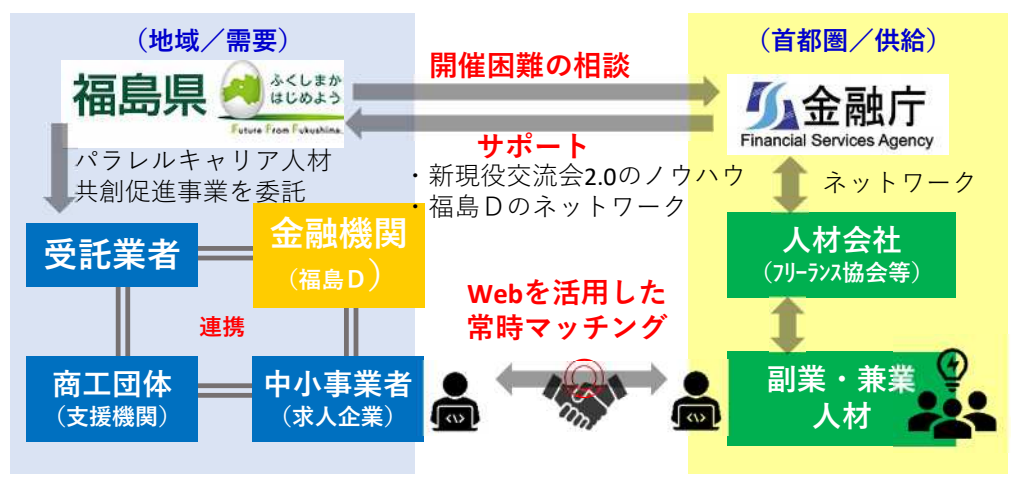


- 内容 : ① 副業人材の現状や活用法 (人材会社・副業経験者)
② パラレルキャリア人材共創促進事業の説明 (福島県)
- 主催 : 金融庁、東北財務局
- 共催 : 福島県、福島県プロフェッショナル人材戦略拠点、ちいきん会

2 本セミナー後の取組み

- 県内金融機関からは、高い関心が寄せられた。更に理解を深めるため、県と金融機関が連携し、自主的な勉強会を開催していく予定。

3 副業人材活用に向けた県と金融機関の連携イメージ

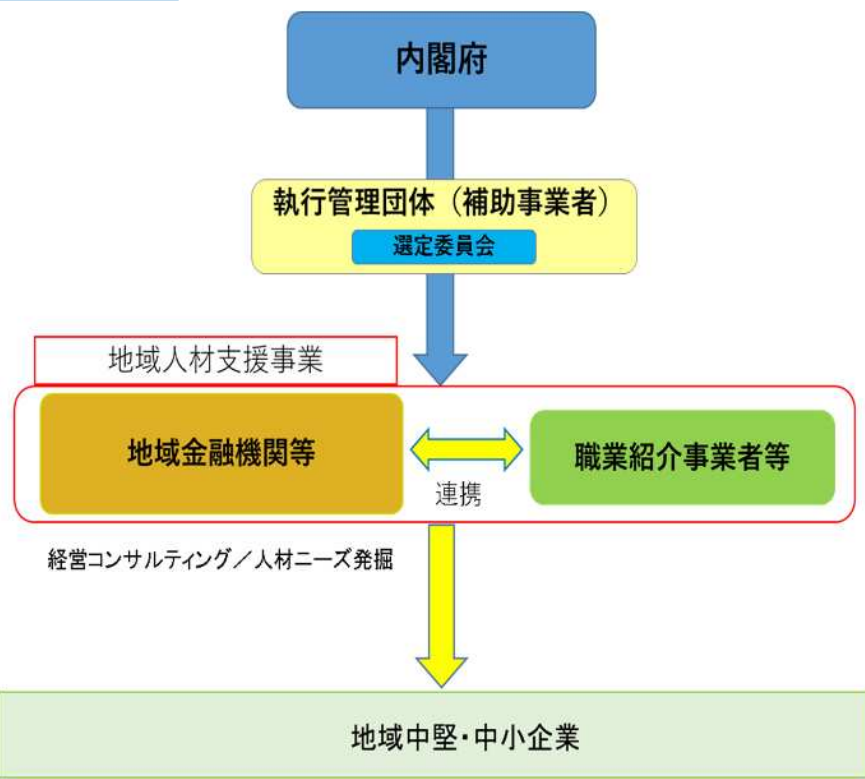


先導的人材マッチング事業

目的

- 地域企業の経営幹部や、経営課題解決に必要な専門人材を確保し、地域企業の成長・生産性向上の実現を目指す。
- 地域金融機関等が、地域企業の経営課題や人材ニーズを調査・分析し、地域金融機関等が職業紹介事業者等と連携して行う人材マッチング事業(地域人材支援事業)を支援する。

事業概要



○ 予算規模は10億円。(令和元年度補正予算)

○ マッチングの成約時に、成果に連動してインセンティブ(補助金)を与える。

○ 日常的に地域企業と関わり、その経営課題を明らかにする主体として、地域金融機関など(注)を想定。

(注) 令和2年6月30日現在、60先を採択済。

- 45道府県(東京都と沖縄県を除く)が「プロフェッショナル人材拠点」を設置し、平成28年1月から本格稼働。潜在成長力ある地域企業に対し、経営戦略の策定支援とプロフェッショナル人材の採用支援活動を行う。
- 各拠点は、地域企業の経営者を対象に、成長戦略や人材戦略への関心を高めるセミナー等の活動を展開しつつ、成長が期待される企業を個別に訪問。経営者に「攻めの経営」と新たな事業展開を促すとともに、企業の成長に必要なプロ人材ニーズを明確に切り出し、優良な雇用機会として人材市場に発信する。
- 地域金融機関や各種支援機関等とも、有望企業の発掘や成長戦略の策定などで積極的に連携。また、拠点同士で協力しながら、都市部の大企業との人材交流の拡大やプロ人材に対する地域経済の潜在力アピールなどの活動を展開。人材ビジネス事業者とも密接に連携しつつ、様々な形で、プロ人材の還流実現に取り組む。



松川町『さくらんぼ観光農家』と阿智村『宿泊観光事業者』の 人材シェアリングの取り組みについて

飯田信用金庫（理事長 小池貞志）は、新型コロナウイルスの影響により県外観光客が減少することが想定される松川町の『さくらんぼ観光農家』様と、同様に新型コロナウイルスの影響で休業を余儀なくされている阿智村昼神温泉郷の『石苔亭いしだ』様に対し、**雇用調整助成金教育訓練加算を活用した人材シェアリングの取り組み**をマッチングいたしました。

教育訓練の計画	オリエンテーリングと教育訓練の開始 2020年 6月16日（火）P M1:00～5:00 場所：南信州まつかわ観光まちづくりセンター（松川町農村観光交流センターみらい内） 住所：下伊那郡松川町大島2065-1 日時：6月16日～7月12日 20日間程度（延べ約250人の教育訓練×さくらんぼ農家の課題解決支援）
シェアリングの相手	<ul style="list-style-type: none"> ・ひるがみ温泉 株式会社石苔亭いしだ様（代表取締役 逸見貴子氏）が観光農園で教育訓練実施。 ・一般社団法人南信州まつかわ観光まちづくりセンター様（専務理事 片桐雅彦氏）及びさくらんぼ観光農家様（6軒）が教育実施機関（人材受入）
教育訓練の名称	地産食材「さくらんぼ」等のサプライチェーン理解と農産物地域生産者とのリレーションシップの構築
教育訓練の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 南信州まつかわブランドのさくらんぼ贈答品（通信販売）造成出荷 2. 南信州まつかわブランドであるサンふじ（リンゴ）等の管理作業 3. 信州ブランドで人気品種であるシャインマスカットほかぶどう管理作業 4. 南信州地域ブランド（誇り）の再発見・再認識
さくらんぼ観光農家様のお悩み	新型コロナの影響でさくらんぼ狩り観光客が減少が想定され、6月中旬から7月上旬に収穫のピークを迎える「さくらんぼ」の収穫人材（労働力）が不足（産直販売やふるさと便などで販路を補完）
マッチングのポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宿泊観光事業経営者のコロナ禍における強い地域貢献意欲と熱心な社員教育への思いで実現 2. 松川町初の取り組みとなる教育訓練について、全22軒のさくらんぼ観光農家の意見を取りまとめ、カリキュラム作成とその実行まで奮起した南信州まつかわ観光まちづくりセンター専務片桐氏の強い信念 3. 弊庫営業店が収集したコロナ情報（イントラネット上）と本部の密接に連携